

第3日目

さて、少しはウィーンを見てきましたから、今日をご自分で重点を決めてみてください。でもその前に、[リング通り](#)（環状道路）を少し歩いてみましょう。

9時

朝食後の散歩は、まずブルクガルテン（[王宮庭園](#)）を抜け、英雄広場に出ます。そこからさらにロマンティックなフォルクスガルテンに入ります。「シシィ」ファンは、ここでぜひ、ユーゲントシュティールの皇妃エリーザベト記念像を見てください。

フォルクスガルテンの向かい側にはアテナ噴水を前にした国会議事堂(1., Dr.-Karl-Renner-Ring 3)が見えます。その隣の、噴水を中心に幾つもの彫像や珍しい木々に囲まれた市庁舎前公園は一休みするには絶好の場所です。

10時

市庁舎の向かい側に見えるのは、ブルク劇場 (1., Dr.-Karl-Lueger-Ring 2)です。この劇場の演目と人事問題については、ウィーンっ子たちの間で賛否両論入り乱れた議論が絶えません。

ブルク劇場横のカフェ・ラントマン (1., Dr.-K.-Lueger-Ring 4)に入って「メランジェ」（ウィーンで一番よく飲まれているコーヒー）を味わってみましょう。ここには劇場関係者や、また政府官庁街がすぐ近くであるところから、政治家がよくやって来ます。

10時30分

ネオルネッサンス様式建築のウィーン大学と、その背後にあるネオゴシック様式のヴォテューフ教会 (9., Roosevelt Platz)を見て、このツアーは終わります。

さて、ここから先は、ご自分でお好みのプランを立ててください。

お薦めスポット

アルベルティーナ美術館は、世界最大規模の重要なグラフィック・コレクションで知られ、デューラーの「野兎」やクリムトの女性像など美術史上の名作が所蔵されています。

更に、新たなコレクションでは、モネ、ピカソからバセリッツに至る現代美術の名作が見られます。建物は、ハプスブルク家のプライベートな宮殿だったもので、ホーフブルク王宮の南端を構成し、ウィーンの古い城壁の一部に組み込まれています。

[アルベルティーナ美術館](#)

建築にご興味のある方は、フンデルトワッサーハウス Hundertwasserhaus (Kegelgasse / Löwengasse 角) をお見逃しなく。ウィーンが誇る一味違った市営住宅です。近くにはフンデルトワッサー美術館「[クンストハウス・ウィーン](#)(3, Untere Weißgerberstraße 13)」があり、「色彩の魔術師」と呼ばれた画家フンデルトワッサーの作品が常時展示されています。

音楽の館 (1., Seilerstätte 30) 音楽の世界を体感してください。インターアクティブな響きの博物館では、今まで知らなかった事実を楽しみながら発見する旅へとあなたをお招きします。

美術ファンには、[美術史博物館](#) (1区、Maria-Theresien-Platz) はじめ数多くの美術・博物館や展覧会、ギャラリーがお待ちしています。

[ミュージアム・クォーター \(MQ\)](#) (7., Museumsplatz 1)

かつて王宮の厩舎だった建築を軸にモダンな建物が並び、世界でもっとも大規模な十の文化施設に数えられます。伝統建築と現代建築が肩を並べ、大きな中庭を囲んで、数々の重要な美術館がオープンしています。

[レオポルト美術館](#)は世界最大のエゴン・シーレ・コレクションで知られています。ダークグレーの玄武岩が印象的な[近代美術博物館](#)、最新の美術潮流を専門とする[クンストハレ・ウィーン](#)では、最先端をいくアーティストの新作が紹介されます。ほかに、フェスティバルホール E と G (ウィーン芸術週週間やダンスフェスティバルの会場)、建築センター、子どもミュージアム、子ども劇場、実験劇場などの施設があります。

ウィーンは建築の街としても知られています。旧市街は幾世紀もの長い歳月を経て、自然に形成され発展してきた歴史の生き証人。中世からバロック、歴史主義にいたる数多くの文化財を持ち、ユネスコ世界文化遺産に指定されています。

リンク通りのすぐ外側に位置するシュピッテルベルク地区 (7区) や、その隣の8区ヨーゼフシュタットにもバロック様式の民家が並び、シックなレストランやカフェ、ブティックなどが近年ますます人気を集めています。

ウィーン中央墓地の名誉区（11., Simmeringer Hauptstraße 234,市中心から市電で約20分）には、ベートーヴェンやシューベルトほか著名な音楽家や作家、政治家たちが眠っています。